

序論)

前は、神様があえてこの世の人たちにとって愚かと思えるような十字架のことばによって、人々を救いに導こうとされた。という話をしました。

私達が信じている『【主】イエスキリストが人の罪を背負って十字架に掛かって死なれ、三日目に蘇られたことによって信じた人が義とされることを示してください。』という十字架のことばは、この世の人たちには愚かなこと、バカなことに感じるかもしれません。でも、【主】はその愚かと思えることばを用いて救われる人を救ってくださるのです。だから、私達は、上手に説明できなくても、拙い言葉であっても、シンプルにイエス様の十字架を証しし続けていけばいい。という話でした。

今日は、そのこの世の人たちには愚かに思える十字架のことばで救われた私達は何者なのか？ というお話をしたいと思います。

1) 召しに対する問題定義 ～なぜ、人間的には弱い者が召されたのか～

1:26a 兄弟たち、自分たちの召しのことを考えてみなさい。

みなさん、自分が何者なのかを考えると、多くの人は自分には何ができるのか。自分はどんな結果を残したのか。そういうことを考えます。そして、例えば大きな会社を作ったり、人々に大きな影響を与えたりしたことがあれば、そのことを誇りとして、自分は成功者なのだ。これほど素晴らしい結果を残したのだ。と誇り、その誇りをもって自分を肯定しようとしします。

コリントの教会で分裂を起こしていた人たちは、アポロに教えられたとか、パウロに教えられたとか、ペテロに属しているということを主張しながら、そのような偉大な先生たちに従っている自分を誇っていたのではないのでしょうか。

でも、パウロはそんな人達に対して、なぜ、あなたがたが救われたのか、神様に選ばれて、神の民になったのかを考えてみなさい。と問題定義をしています。

ここで最初に注目していただきたいのは、私達は【主】に召された者である。ということです。「召し」ということばは、現代では教会ぐらいでしか使われないことばだと思います。「召し」というのは英語で言えば「called」であり、「【主】に呼ばれる」ことを指します。普通、人を呼ぶ時は何か目的をもって呼びますよね。病院で「本多さん」と呼ばれれば、診察してもらったり、会計をするために呼ばれま

す。会社で「本多くん」と呼ばれれば何か仕事を与えるために呼ばれます。私達が【主】に呼ばれたのも同じです。みなさんは、たまたま救われたわけではありません。神様には成し遂げたい目的があって、みなさんを呼ばれたのです。

では、わたしたちが【主】に呼ばれたのは、どのような目的があっての事でしょうか。パウロはここでコリントの現状に目を向けさせます。

1:26b 人間的に見れば知者は多くはなく、力ある者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。

「人間的にみれば」とは、元のギリシャ語を直訳すると「肉によってみれば」で、霊的な視点ではなくこの世的な視点でコリントの教会の人々をみると「知者は多くはなく、力ある者も、身分の高い者も多くなかった。」ということです。

コリントの教会に身分の高い人、影響力がある人がいなかったわけではありません。14 節のガイオは人々に拠点となる家を開放できるぐらいの余力がある人でしたし、ローマ人の手紙やテモテへの手紙でコリントにいたと言及されているエラストという人物は、コリントの財務官をしている人でした。

でも、コリント教会を占める多くの人が、経済的な弱さや、社会的な身分の低さを持ち、哲学の街コリントにあって知識を語ることができないような無学な人だったようです。実際問題、この手紙の 11 章をみると聖餐式のパンで空腹を満たそうとしていた人がいたようですし、7 章にはコリント教会にいる奴隷に向けてのパウロからのメッセージが書かれています。

だから、パウロはコリント教会の人々に対して、この世の視点でみれば、あなた達の多くは、知者でも、強者でも、社会的成功者でもないと言っているのです。

では、パウロはガイオやエラストのような社会的立場のある人たちを除外して語っているかという、そうではないと思います。なぜならば、例え社会的立場がある人であったとしても、【主】の目からみたら私達は泥人形のようなものだからです。詩篇 103 篇 14 節にはこうあります。

詩篇 103:14 主は私たちの成り立ちを知り私たちが土のちりにすぎないことを心に留めてくださる。

私達は、この世の塵^{ちり}に神様の息を入れられてつくられました。ですから、私達は本来、すべてのものが塵に等しい者なのです。

2) だれも誇ることがないため ～主はあえて弱い者を選ばれた～

でも、神様が私達のような無力で力のないもの、立場のないものをあえて選んで呼び出してくださったのには意味があります。それは全ての者が【主】の前に誇ることがないようにするためです。27 節から 29 節を読みましょう。

1:27 しかし神は、知恵ある者を恥じ入らせるために、この世の愚かな者を選び、強い者を恥じ入らせるために、この世の弱い者を選ばれました。

1:28 有るものを無いものとするために、この世の取るに足りない者や見下されている者、すなわち無に等しい者を神は選ばれたのです。

1:29 肉なる者がだれも神の御前で誇ることがないようにするためです。

先にお話したように、この世の人々はどんな成功をしたのか、どんな結果を出したのか、自分にはどのような能力があるのか。そのようなことを誇り、それをもって自分の支えにします。ですから、逆にいうとそういった誇れる能力とか、結果とか、成功体験などが無いと落ち込んだり、劣等感に苦しんだり、自分の存在価値がないように感じることもあるのです。

でも、神様はあえて愚かな者、弱い者をお選びになりました。なんのためでしょうか？ この世の知恵者、強者を恥じ入らせるためです。

つまり、どんなに成功や、結果や、能力を誇ったとしても、それらは神様の選びには関係ないということをわからせ、この世の人たちが誇りにしていることは神様の前では無意味なものであるということを知らせるために、【主】は弱い者、愚かなもの、塵のようなものをあえてお選びになったのです。

みなさん、これは別に成功することが悪いこと、結果を出すことが悪いこと、能力を持つのが悪いことというわけではありません。それらは素晴らしいことだし、私達が目指していくべきことだと思います。

イエス様のお話を思い出してみましょう。イエス様はマタイの 25 章でタラントの例えをされました。5 タラント預けられた人、2 タラント預けられた人、1 タラント預けられた人、それぞれに主人がどのような評価をしたかというところ、5 タラント預けられて 5 タラント儲けた人には「よくやった忠実なしもべだ」と評価され、2 タラント儲けた人にも同じように「よくやった忠実なしもべだ」といわれ、1 タラントを地面に埋めてなんの利益も出そうとしなかった者に対しては「悪い怠け者のしもべだ」と言われて 1 タラントが奪われてしまいました。

みなさん、このイエス様のたとえ話から考えても、【主】は忠実に働いて結果を

出す人をちゃんと評価してくださるお方です。

でも、神様の召し、神様の選びに対してはこの世の成功や、結果、そして、その人の能力は関係ないのです。どんなにこの世の人がその成功や立場を誇ったとしても、それゆえに人が救われることはありません。むしろ、【主】はあえて弱い者、足りない者を選んで、ご自分の民にされようとしています。

みなさん、実際にご自分の救いの出来事を思い出してください。「自分はこんなにすごいんだ！」って、えばった状態で救われた人はいないのではないのでしょうか。自分の弱さ、足りなさ、罪深さを示され、そして、そんな自分を愛しておられる【主】の臨在を示されることによって皆さんは救われたのではないのでしょうか。

私も、高校2年生で救われた時は、士師記や列王記を通して、【主】に導かれながらも散々【主】を無視してきたイスラエルの姿が、自分の姿であることを示され、そんな罪深い私を【主】が呼んでくださっているということが分かって救われました。また、私が献身者として召された時も、会社でうつ状態にされ、自分の力では何もできないことを示され、【主】により頼んだ時に平和が与えられたことを通して、【主】に直接仕える者として召されたことを確信させていただきました。

【主】はあえて、そのように弱さ、罪深さを知らせて、そのような愚かな者を選び、ご自分の民としてくださったのです。それは、この世的に能力とか、立場とか、すばらしい結果をもっている者に、それらは救いに繋がらないことを示し、神様の前で自分のことを誇れる人は一人もいないことをお示しになるためでした。

3) 主を誇るため ～キリストのうちにある恵み～

そして、神様が罪深い私達、弱い私達をあえて選び、呼び出してくださったのには、もう一つの理由があります。それは、私達が【主】を誇るためです。

これまで「わたしたちは何者なのか？」という問いに対して、人間的には弱い者であり、【主】の前では無力で、何も誇る者がいないものである。ということを確認しました。私達が神様の前に立ち、自分の罪深さ、弱さを見つめるとき、自分には誇るものが何もないことを気付かされます。

でも、それでいいのです。なぜならば、そんな誇る者何にもない私達ですが、私達は、キリスト・イエスのうちにある者だからです。

みなさん、私達は誇れるものが何もない者ですが、だからこそ、私達はキリス

ト・イエスに所属している者であることを誇りたいと思います。

この手紙の冒頭で語られたアポロ派なのか、パウロ派なのか、ペテロ派なのか、という論争に答えるとするならば、私達はみんなキリスト・イエス派です。そして、これこそが私達が誇るべきことなのです。

キリストは私達に本当の知恵、神様の知恵を与えてくださるお方です。

東大を出ていなくても、北大を出ていなくても、立派な成績、素晴らしい業績を残していなくても、キリストはそれらにまさる神様の知恵を与えてくださいます。そして、その知恵こそ、【主】によって与えられる義と聖と贖いです。30節を読みましょう。

1:30 しかし、あなたがたは神によってキリスト・イエスのうちにあります。キリストは、私たちにとって神からの知恵、すなわち、義と聖と贖いになりました。

「義」とは神様から「よし」と認められることです。どんなに罪深くても、どんなに失敗を積み重ねていても、キリスト・イエスに所属しているというだけで、神様は私達のことを「よし」と認めてくださるのです。

普通ならば、罪を犯している人、失敗を積み重ねている人に向けられることは、「あなたはダメだ。」「有罪だ。」「認められない。」ということばですよね。でも、【主】は私達のすべての罪を背負って十字架で死なれたキリストを信じ、そのキリストの中に所属している者を、イエス・キリストの贖いのゆえに「よし」と認めてくださいます。これはこの世の理屈を超えた恵みであり、どんなにこの世の人が大きな成功を収めたとしても、私達に与えることができない。唯一の救いです。

そして、「聖」とは、キリストによって特別にこの世とは切り分けられることであり、聖霊によって不完全な私達が徐々に聖められ、【主】との交わりを深めることができることです。これもまた大きな恵みです。

みなさん、私達は自分の力では罪から離れることはできません。また、同じように自分の力では神様が求めておられる愛、アガペーの愛を実践することができません。

実際、よみがえられたキリストに出会ったペテロは、三回イエス様に「あなたは私を愛しますか？」と聞かれました。この時、イエス様がいつている最初の二回の愛とはアガペーの愛ですが、それに対して、ペテロは三回「【主】よ。わたしがあなたを愛することは、あなたがご存知です」と応えました。その時、ペテロが言っ

ている愛はフィレオの愛、つまり、家族的な愛であり、神様の愛、アガペーの愛ではなかったのです。だから、イエス様は三回目の質問の時にはアガペーの愛で愛しますかとは言わずに、ペテロに合わせてフィレオの愛で愛しますか？と質問されました。

私達は、自分の力では神様の愛、アガペーの愛を実践することはできません。でも、【主】によって聖められるのならば、罪から離れ、この私達には不可能なアガペーの愛を実践することができるようになるのです。これもまた、この世の成功では得ることができない大きな恵みではないでしょうか。

そして、最後の「贖い」とは、【主】イエスキリストの十字架の贖いであるのと同時に、やがて私達が【主】によって完全に救われることを意味しています。

みなさん、私達はこの世にあって未完成なものです。聖霊様の聖めをうけて少しずつ霊的に成長することができますが、でも、完全にはなれません。しかし、

【主】イエスキリストの贖いの完成は、私達を完全な存在にしてくださるのです。

みなさんは、こんなことばを聞いたことがないでしょうか？

「仕方ないよ。だって人間だもの」

これは人間なら、間違いや失敗があって当然である。だから、失敗したり、間違ったりしてしまうことは仕方ないことだ。という意味ですね。確かに私達は、失敗したり、間違ったりします。どんなに優れた人であったとしても、成功を収めている人であったとしても、失敗しない人はいないでしょう。

でも、【主】の贖いは、やがて【主】の日に私達をキリスト・イエスにあって完全な者としてくださるのです。これもまた、この世の人には与えることができないものです。だからこそ、贖いは【主】のみが私達に与えることができる比類なき恵みです。

みなさん、【主】はキリストの十字架の贖いと復活というこの世の人たちにとっては愚かと思えるような出来事を通して、私達を救うようにしてくださいました。そして、その上で、人間的には愚かで、弱く、立場の低いものをあえて選びだして、キリストによって召してくださったのです。

それは、私達が神様の前で誇らないようにするためであり、弱い私達がキリストに属する者になることによって、この世のどんな成功者でも手に入れることができない、義と聖と贖いを手に入れることができるようにするためです。

これこそが、キリストが私達にしてくださったことであり、神様の知恵です。

だからこそ、私達がどれほど弱く、愚かであったとしても、私達はこの【主】を誇ることができます。31節に

1:31 「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。

みなさん、これが弱く、愚かな私達が【主】に呼ばれた理由です。

私達はこの決して人には与えることができない恵みを与えてくださった【主】を誇るために、召されたのです。

結論)

この星野富弘さんのことは、皆さんよくご存知だと思います。

彼は群馬大学教育学部を卒業後、中学校の体育教師となりました。しかし、1970年、クラブ活動の指導中に頸髄を損傷し、首から下の自由を失うという大事故に遭いました。この出来事は彼にとって大きな試練であり、絶望の淵に立たされることとなります。しかし、彼の入院中、大学時代の先輩である米谷信雄さんから聖書を贈られ、最初は聖書を理解することができませんでした。ローマ5章にある「苦難さえも喜ぶ」ということばに衝撃を受け、自身の苦しみ希望へとつながる可能性を感じるようになったそうです。そして、彼はキリストの愛と救いを知り、1974年に洗礼を受けました。

その後、口に筆をくわえて詩や絵を描き始めた星野さんの作品は、多くの人々の心を打ちました。彼の作品を通して、救われた人や、信仰の力を再確認した人、苦難を乗り越える力を得た人たちが多くいます。

みなさん、【主】はあえて弱い私達、愚かな私達を選び、【主】の民にするために呼び出してくださいました。それはすべての人が誇ることがないようにするためであり、私達がこの【主】を大胆に誇るようになるためです。星野さんはまさに弱いながらも【主】を誇った人と言えるのではないのでしょうか。

みなさんは、素晴らしい働きや仕事をしていると思います。それぞれの仕事もそうですし、家庭での家事や育児も素晴らしいものだと思います。【主】はそれらの働きを評価し、褒めてくださるお方です。しかし、同時に私達自身が神様に対して誇れるものは何もありません。それは、私達はみな罪人であり、塵から作られたものであり、弱く足りない者だからです。

でも、【主】は、あえてそんな私達を選んで、キリストに属する者にしてください

いました。キリストは、私達にその神様の知恵を与え、私達を義とし、聖め、完全な贖いを与えてくださいます。

だからこそ、私達は自分の弱さを嘆くのではなく、この弱さの中に輝く【主】の栄光を誇る者となりましょう。【主】こそが、私達の誇りであり、知恵です。

お祈りいたします。

★応答の時

みなさん、今日の御言葉を通して、【主】が語ってくださったことを、今、黙想し応答の時を持ちたいと思います。

みなさんは、なぜ【主】に呼ばれたのでしょうか？

神様は、どのようなみなさんと呼ばしめられたのでしょうか。

【主】がみなさんに弱さや罪深さを示した上で、皆さんを召されたのにはどのような意味があったのでしょうか。

「あなたは何を誇りとして生きてきましたか？」

そして今、「あなたはこれから何を誇りとして生きていきたいですか？」

しばらく静まって、それぞれが【主】の御前で、自分自身の言葉で、時をもちましょう。そして、具体的に自分がなすべきことを示されたのならば、そのことも「わたしの応答」の欄に書き出してみてください。